

北海道米 topics

SNSやコラボレーションで
北海道米のファンを拡大

●ゆめぴりかヲタクキャンペーン

認定マークを生産者の皆様と消費者双方にPRするため、Instagramで「#ゆめぴりかヲタク」と認定マークを付して、ゆめぴりかを炊いて作った料理の写真を投稿すると高級炊飯器が抽選で当たる「ゆめぴりかヲタクキャンペーン」を実施しました！美味しそうな料理と笑顔の写真がたくさん投稿され、キャンペーンを通して今年の美味しいゆめぴりかを食べていただくことができました。



Instagramで投稿された写真

●味の素コラボキャンペーン

コロナ禍での家庭内食の需要増に向けてななつぼしと味の素（株）のコラボキャンペーンを実施しています。その第一弾はレンジで簡単に調理ができる「スチーマー」とのコラボ。「ななつぼし」を購入したレシートを撮影してスマホで送るだけで応募。1,000名の方に味の素商品 1,000円相当をプレゼントし、「ななつぼし」のおいしさを味わっていただきました。第2弾は令和3年1月から、「Cook Do® 今日の大皿シリーズ」とのコラボを予定しています！



メスティン炊飯・日本酒で米の美味しさを再確認

空前のアウトドアブームの中心にあるお米の可能性



日本盛：生原酒ボトル 200ml

コロナ禍においてアウトドアが空前のブームです。中でも取手付きアルミ製飯ごう「メスティン」を使った炊飯が人気です。アルミのお弁当箱のようなメスティンは固形燃料を使って簡単にご飯が美味しく炊けることから一時は入手困難になるほど人気でした。また、北海道産の酒造好適米を一部使用している日本盛(株)の「生原酒ボトルシリーズ」は軽くて持ち運び便利なことからアウトドアシーンで好評。アウトドアを通じて米のおいしさを再認識し、味にこだわる人が増えていることは、注目すべきトレンドです。

動画でメッセージをご覧ください。 <https://vimeo.com/443341717/d297f3e1a3>

生産者のみなさんへ販売現場からのメッセージ動画を配信中です。右の2次元コードをスマートフォン・タブレットで読み込んでご覧ください。



北海道米 LOVE LETTER

2020年 VOL.03

発行：ホクレン米穀部 札幌市中央区北4条西1丁目

ホクレン 主食課
課長 湯佐 友広

新型コロナウィルス感染症の影響を受け、米価の大幅な下落が続いています。特に販売先が固定化されていない産地・銘柄の米が低価格で流通し、全国の銘柄に影響を与え、近年安定した評価を確保してきた北海道米にも影響が及ぶまでになっています。

このように、販売環境は非常に厳しい状況ですが、令和2年産の北海道米は「作況106（良）」と、収量や品質・食味も高い米が収穫されています。

販売面では北海道は全道一丸となって取り進めてきた「品種開発」「良質米生産」「あんぜんあんしんの取組」「施設調製による大口ロット均質化」「系統一元集荷」「複数年契約の取組」「全国消費者へのPR活動」など、これまでの取組もフル活用しながら全量販売を実現してまいります。

さらに、生産側にとって数量・価格が確定しているため営農計画を策定しやすいというメリットがあることから「長期安定取引」の取組数量が徐々に拡大しています。

令和3年産では全国的に主食用の生産抑制が求められることとなりますが、水田活用米穀を含めて北海道米としての需要を最大限確保します。こうした取り組みを継続・強化し、北海道が一丸となることで、この難局を乗り越えていきたいと考えております。そのためにも水張面積の維持を宜しくお願いいたします！

長期安定取引（5年以上継続）

生産者・取引先双方の経営リスクを軽減する契約手法として、新たに導入した「長期安定取引」契約。取引先に対し、生産原価を踏まえた価格で長期間継続的に購入いただくことで、お互いに作柄や価格変動リスクを回避できます。

●長期安定取引の締結数量



●主な契約締結先

ホクレンパールライス、株式会社神明、木徳神糧株式会社

北海道米を取り巻く環境と今後

難局を乗り越えるために

新型コロナウィルス感染症の影響は、米の消費や価格にも大きな影響を与えています。供給が需要を上回る厳しい状況の中、現状と今後の対策についてホクレン主食課の湯佐課長に聞きました。

みんなで北海道を「日本一の米どころ」へ 水稻面積の維持が求められています！

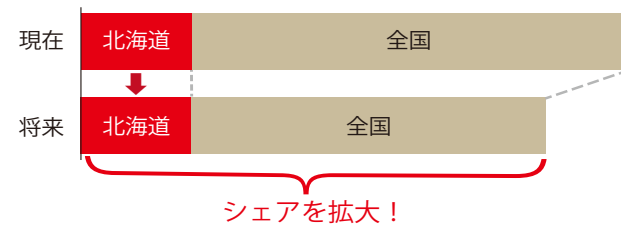
米の販売において、大切なのは需要に対する安定供給。主食用の需給調整を実施しつつも、北海道の作付面積拡大が必要な理由は「需要に応える信頼」を守るためなのです。



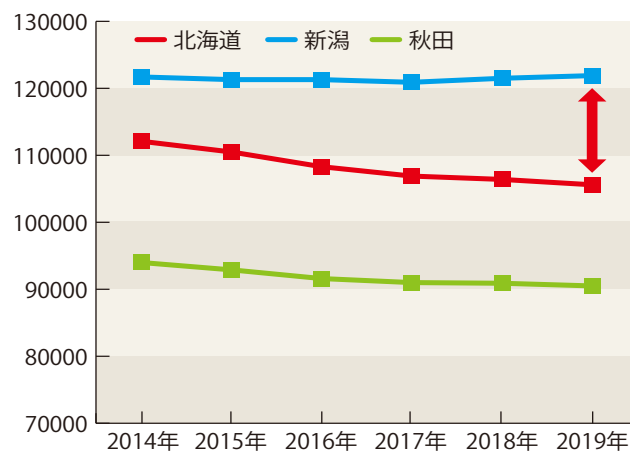
01 北海道米の作付面積の減少が続いています

JA グループ北海道では、将来にわたって日本の米生産をリードするために「日本一の米どころ北海道」の実現に向けて、北海道米の生産力を維持し、全国に占めるシェア拡大を目指しています。しかし、北海道の水稻作付面積は、減少しているのが現状です。新潟県との差は年々拡大し、「日本一の米どころ」という目標から遠ざかる一方となっています。

将来へ向けての理想的な生産



水稻作付面積の推移（単位：ha）



市場における北海道米の価値を高めるためにも、「日本一の米どころ」の実現に向けてオール北海道での取り組みを進めています。

02 安定供給が鍵

人口減による米の需要減少傾向が続くことが想定されている中、水稻生産に不安を感じることがあるかもしれません。しかし、北海道米は高い品質と安定供給力により多くの需要があります。この需要に応え、マーケットシェアを拡大するためにも北海道米の生産力の維持が必要です。



03 進化する省力化技術を活用

水田の集約化が進み 1 戸当たりの作付面積は拡大傾向にあるため、従来の作業体系では対応が難しい状況にあります。そこで、試験場や農機具メーカーでは、米作りで特に大きな手間と時間がかかる育苗の省力化技術の研究を進め、実用段階に入っています。地域や自分の経営スタイルにあった省力化技術を導入しましょう！



支援情報

水稻生産拡大に向けた省力化技術推進モデル事業

北海道米の生産力維持と全国に占めるシェア拡大に向けて、JA グループ北海道は「北海道水田農業ビジョン」の中で「107,000ha 以上の生産」を目標に掲げています。その目標達成には省力化技術の普及拡大が不可欠。そこでホクレンでは省力化技術による生産拡大を条件に農業機械等の費用を一部助成する事業を立ち上げました。

助成金の詳細は
各 JA に
ご相談ください。



省力化技術の参考事例や
実証結果は北海道農産協
会のHP から資料をダウン
ロードできます。
<https://hokkaido-nosan.or.jp/products/rice/pdf/>

●事業実施期間 令和2年度～3年度（単年度助成事業）

●助成対象者

・省力化技術を活用し、前年度から水稻生産を拡大していること。

※対象となる省力化技術等、その他要件は JA へ確認願います。

●助成対象となる注目の省力化技術（例）

高密度播種短期育苗（密苗・密播など） 苗箱削減で育苗や田植えの労力をカット



POINT

育苗箱数・苗運搬時間 最大**1/3 に削減** 育苗資材費 約 **1/2 に削減**

技術概要

- 育苗箱への播種量を通常の2～3倍に増やし、14～21日の短い育苗日数で移植する
- 田植機で小さく掻き取って移植するため苗箱1枚当たりの移植面積は2～3倍
- 品質や収量は慣行栽培と同等

直播栽培 苗をつくらないことで春作業を楽に



POINT

※北海道生産技術体系(第5版)より試算
春作業(種子予措・育苗管理～移植・播種まで)の時間 約**36%に削減**

技術概要

- 苗をつくらず田んぼに直接播種する
- 畑の状態で種を播く乾田直播と、代掻きをしてから種を播く湛水直播の2種類がある
- 代掻きしない乾田直播は、水はけが良いため田畑輪換がスムーズ

水田 f a r m o ファーム 圃場水管理 I C T 機器



POINT

人力での総労働時間で**3割**を占める水管理の省力化
冷害危険期の水温も容易に把握・管理可能

技術概要

- 水位センサーと給水ゲートを田んぼに設置し、機器を操作・管理する専用アプリをスマホにダウンロードする
- 自宅からスマホ上で、水位・水温の確認や給水・止水の管理が可能のため、水管理に要する時間を大きく削減可能

●助成割合・助成額

- ・助成対象となる取り組み事業費合計の50%を助成します。
- ・但し、上限額は50万円/申請（税別）となります。

※国等の補助事業対象の場合は、補助事業費を除く残額を助成対象事業費とします。

※申請状況により、事業対象の選定や事業費が按分となる場合があります。